

「袋回しについて」松橋帆波

今月のセンマガ句会で行います「袋回し」のルールをについて解説いたします。

袋回しとは、昔句会や、川柳旅行などで行われていた、即吟、即選を参加者みんなで行う一種のお遊びです。

まず、人数分の袋を用意します。参加者は袋の中に自分で考えた「題」を書いた紙を忍ばせます。合図と共にその袋を左の人に渡します。袋を貰った人は、その中に書いてある「題」に対して句を作るのです。大体5から10句、作句数を決めておいて、決められた数の句ができた人は、句箋を袋に入れて左の人に廻します。どんどん廻していき、皆に自分の書いた「題」の入った袋が戻ってきたら作句は終わりです。そして、その袋の中の句を全員で互選していくのです。即興と多作、多読を兼ねた練習ともいえます。

川マガ東京句会では、あらかじめ紙袋に「題」を書いておき、配布した袋の題の下に皆さんの名前を書いていただきます。それから左へ廻していくという形をとります。

参加人数によりますが、時間の関係上「3分で作句数制限なし」といたします。別に「題」を書いてある紙を配り、そこへ作った句を控えておいていただきます。一回りすれば、それぞれに選考し、披講（代読もありといたします）いたします。

目的は、沢山の課題に対して集中して作句することで、自分が思った以上に句を作る事ができる、ということを体験していただくという事です。秀句が生まれるというよりも、作句に集中するという体験です。

課題は難しいものではなく、次のようなものを用意いたしました。

「星」「夢」「坂」「削る」「拾う」「買う」「送る」「崩れる」「燃える」「消える」